



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



輸液ラインと経腸栄養ラインの誤接続防止について

この間、本来胃チューブから入れるべき漢方薬「大建中湯」を、誤って輸液ラインから誤注入した事例が報告されました。

輸液ラインと経腸栄養ラインの誤接続の危険性は、以前より指摘されていた問題です。とりわけ経腸栄養を輸液ラインから注入した場合は、重大な結果に結びつくことから、あらためて各院所で点検をおこない防止策を徹底するようお願いいたします。

誤接続防止は『物理的に接続不可能』とすることが基本

今回事例の報告があった院所は、誤接続防止のために10年前から点滴以外のチューブには、輸液ラインにつなぐ白色の三方活栓とは別の「赤色の三方活栓」（口径は白と同じ）を導入し、さらに3年前からは色分けした注射器を導入するとともに、物理的に接続できない仕組みとするために口径の違う黄色の三方活栓を導入していました。

ところが、今回の事例となった胃チューブに関してのみ、黄色の三方活栓がうまく接続できなかったため、やむなく赤色の三方活栓を使用するという対応策をとりました。報告事例では、本来の赤ではなく白色の三方活栓が接続されていたため、色の区別による防止策が逆効果となり、同じ白色の輸液ラインへの誤接続を招く結果となりました。

口径の異なる三方活栓を導入した同時期に、適切に接続できる製品が出ていたと思われますが、継続的な追求が甘かったことから、そのまま変更されず経過してしまったものです。

この輸液ラインと経腸栄養ラインの誤接続の問題は、厚生労働省が2000年5月に設置した「医薬品・医療用具等関連医療事故防止対策検討会」の最初のテーマとして取り上げられました。同年8月には「経腸栄養ラインの関連製品を輸液ラインとは物理的に接続が不可能となるような規格とする」旨の基準が策定され、同年11月の「医薬品・医療用具等安全情報 NO.163」には当時入手可能な製品についても情報提供されています。

その後、日本医療機器関係団体協議会のホームページ(<http://www.jfmda.gr.jp/>)にも、基準適合製品の一覧が掲載されていますので参考にして下さい。（最新情報は各企業に問い合わせが必要です）

上記対策を徹底していくためには、「物理的に接続できない製品」の導入が必要となり、経営的な面からの検討も必要ですが、医療の安全性を徹底していくために迅速な対応を期待します。